

5 CHAPTER

第5章

方面別指針

京都の都市特性を踏まえた持続可能な都市構造の実現に向けては、多様なポテンシャルを持つ各地域をネットワークさせ、まちづくりの効果を最大限にいかす視点が重要です。

本章では、市域を「北部」「都心部」「東部」「南部」「西部」の5方面に区分し、方面ごとに将来像や方向性を即地的・総合的に分かりやすく示すことで、各方面間のつながりも踏まえながら、課題やポテンシャルに的確に対応した施策の展開につなげていきます。

1 策定の背景

2 方面別指針の役割

3 方面の区分

- ・ 北部
- ・ 都心部
- ・ 東部
- ・ 南部
- ・ 西部

1

策定の背景

市域全体の都市計画の基本的な考え方として、「保全・再生・創造」の土地利用を基本としながら、多様な地域の魅力や価値を引き出し、ひいては京都ならではの魅力と都市活力の循環につなげることで、京都の都市特性を十分に踏まえた持続可能な都市構造の実現を目指すこととしています。

その実現に向けては、定住人口の確保や産業空間の創出といった本市の基礎的課題に対して、各地域において個々に対応することはもとより、多様なポテンシャルを持つ各地域をネットワークさせ、まちづくりの効果を最大限にいかす視点が重要です。

そのような考えの下、方面ごとに将来像やまちづくりの方向性を即地的・総合的に分かりやすく示した「方面別指針」を策定します。

2

方面別指針の役割

個々の方面の強み・役割を明確化し、方面間相互のつながりも踏まえ、課題・ポテンシャルに的確に対応した施策展開を行うための土地利用の基本的な方針を示すことにより、以下の効果を引き出します。

- 1 市民・事業者にとってより身近な方針として、各地域の将来像を共有
- 2 各方面の総合力により、「市域全体の将来ビジョンの実現」を推進
- 3 分野横断的に連携・融合させた政策を、より即地的・効果的に展開

3

方面の区分

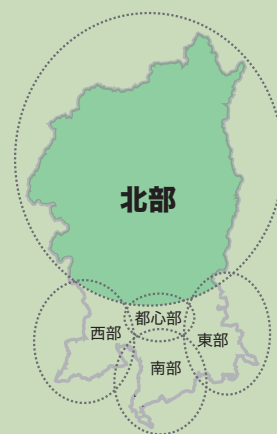
地形や土地利用の状況などに加え、市内外へ伸びる鉄道や道路のつながり、駅拠点のまとまりなどを考慮し、市域を「北部」「都心部」「東部」「南部」「西部」の5方面に区分します。



北部

北部地域は、森林・河川などの豊かな自然環境や田園風景が広がり、社寺などの歴史資源が多く存する山紫水明の地域です。

大学や文化・交流施設が数多く立地しているほか、京町家などの歴史的な町並み、さらには伝統産業、京野菜や北山杉といった農林業などの生業が、人々の日常の暮らしの中で息づき、今に継承されています。



(1) ポテンシャル

- 山ろく部を中心に、歴史的風土保存区域などに指定され、数多くの国宝・重要文化財などの歴史的なストックがあることに加え、伝統行事も各地域で継承されています。
- 数多くの大学が立地（市内の全 38 大学のうち 15 大学が立地）しており、20 代の若年層や外国籍の人たちが他の地域と比較して多く居住しています。
- 岡崎地域一帯の文化施設や宝が池の国際コンベンション施設など文化的なストックが豊富にあり、国内外から人々が訪れ、交流する拠点となっています。
- 西陣地域では、西陣織をはじめとしたものづくりの伝統が息づくとともに、近年では、クリエイティブ産業の育成を支える拠点が増えています。
- 北部山間地域では、多様な地域特有の暮らしが継承されているとともに、豊かな自然をいかながら交流を深める施設も充実しています。



(2) 課題

- 西陣織の総出荷額はピーク時から約 9 割減少するなど、伝統産業をはじめとした地域に根付いた生業の長期的な低迷が続いている中で、新たな産業展開などを見据えたこれらの魅力発信やブランド化は不十分な面があります。
- 北部山間地域では、人口減少や少子高齢化により、生業としての農業の担い手不足や山林の維持管理が困難な状況になってきており、地域コミュニティの衰退が進んでいるとともに、日常生活などに必要な交通手段の確保が課題となっています。



(3) まちづくりの基本コンセプト

豊かな自然や文化、伝統産業、学術資源など、暮らしに息づく貴重な資源を守り、いかして、京都の魅力と誇りを将来にわたり受け継ぐ

(4) 主な地域の将来像と暮らしのイメージ

① 方面全般

人々の暮らしや健康を支える多様な機能、良質なにぎわいと調和した潤いとゆとりある居住環境が維持されるとともに、豊かな自然環境や農林業、歴史的なストックなど、古くから受け継がれてきた資源と新しい産業や技術とが結び付き、クリエイティブな活動が展開され、新たな魅力や価値の創出につながっている。

② 地域中核拠点エリア

〈国際会館駅周辺〉

豊かな自然に囲まれたゆとりある居住環境と調和しながら、文化・MICE・学術機能が集積した魅力ある拠点が形成され、あらゆる世代の交流が促進されている。

MAP ①

〈北大路駅周辺〉

交通結節・商業の複合機能を核に、大学などと連携し、住環境とも調和した新たな形のオフィスや商業施設の立地が進み、にぎわいが広がっている。

MAP ②

〈北野白梅町駅周辺〉

西陣地域の新たな働く場の創出や歴史資産の魅力をいかし、住環境とも調和した新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進み、活気が生まれている。

MAP ③

〈今出川駅周辺〉

京都御苑や社寺などの歴史的な景観や緑と調和した閑静な住宅地が維持されるとともに、大学との連携により、新たな魅力やにぎわいが生み出されている。

MAP ④

〈出町柳駅周辺〉

商店街をはじめとする地域の商業・業務機能をいかし、団地再生のまちづくりとの相乗効果を生むように、住環境との調和の下、新たな形のオフィスや商業施設の立地が進み、にぎわいが広がっている。

MAP ⑤

③ ポテンシャルの高い主な個別地域

- 西陣地域では、伝統産業と最先端技術の融合を図るなど、地域で受け継がれてきた歴史・文化、匠の知恵や技をいかしつつ、クリエイティブ産業を支える拠点として、暮らしと調和した働く場が創出されるなど、まちの魅力・活力が向上している。
- 岡崎地域では、都市の豊かな緑と融合しながら、文化芸術に触れられる魅力的な機能がより一層充実し、更なるにぎわい・交流が生み出されている。
- 鞍馬や大原などの市街化調整区域における既存集落では、暮らしを支える施設や観光資源などをいかした地域づくりの核となる施設が充実し、地域の生活やコミュニティが維持されるとともに、多様な人々の交流が活発になっている。
- 京北地域や花脊などの山間部の地域では、教育環境の充実などをいかしながら、2拠点居住やワーケーションといった新たな暮らしや働き方のニーズにも対応した環境の整備が進み、移住・定住の促進につながっている。

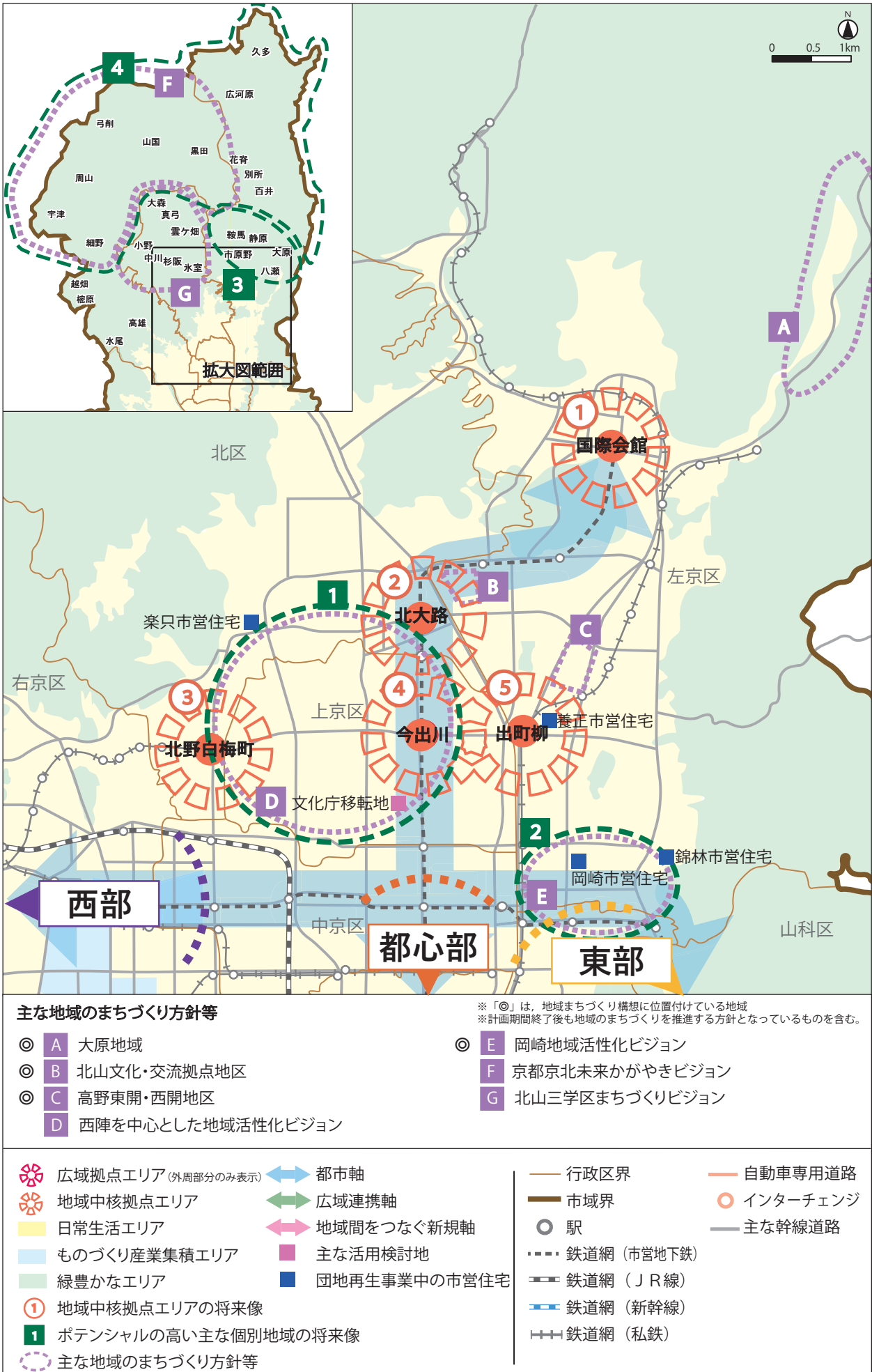
MAP ①

MAP ②

MAP ③

MAP ④

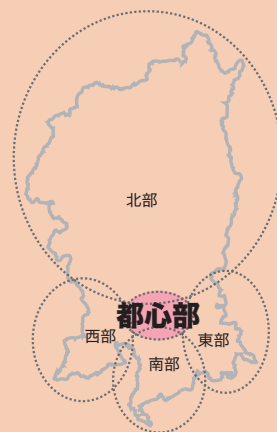
■将来イメージ図



都心部

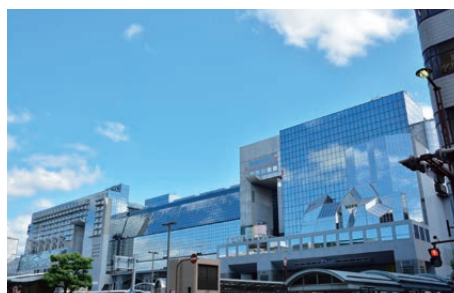
都心部は、祇園祭や地蔵盆といった祭事・行事が今日まで受け継がれ、暮らしにも息づいており、京都らしい個性と魅力を持った職・住・学・遊が共存する地域です。

本市及び京都都市圏の中心として、商業・業務施設や生産施設、文化施設など多様な都市機能が複合的に集積している一方、京町家など木造の伝統的な建物による町並みも残っており、京都固有の歴史や生活文化を今に伝えています。



(1) ポテンシャル

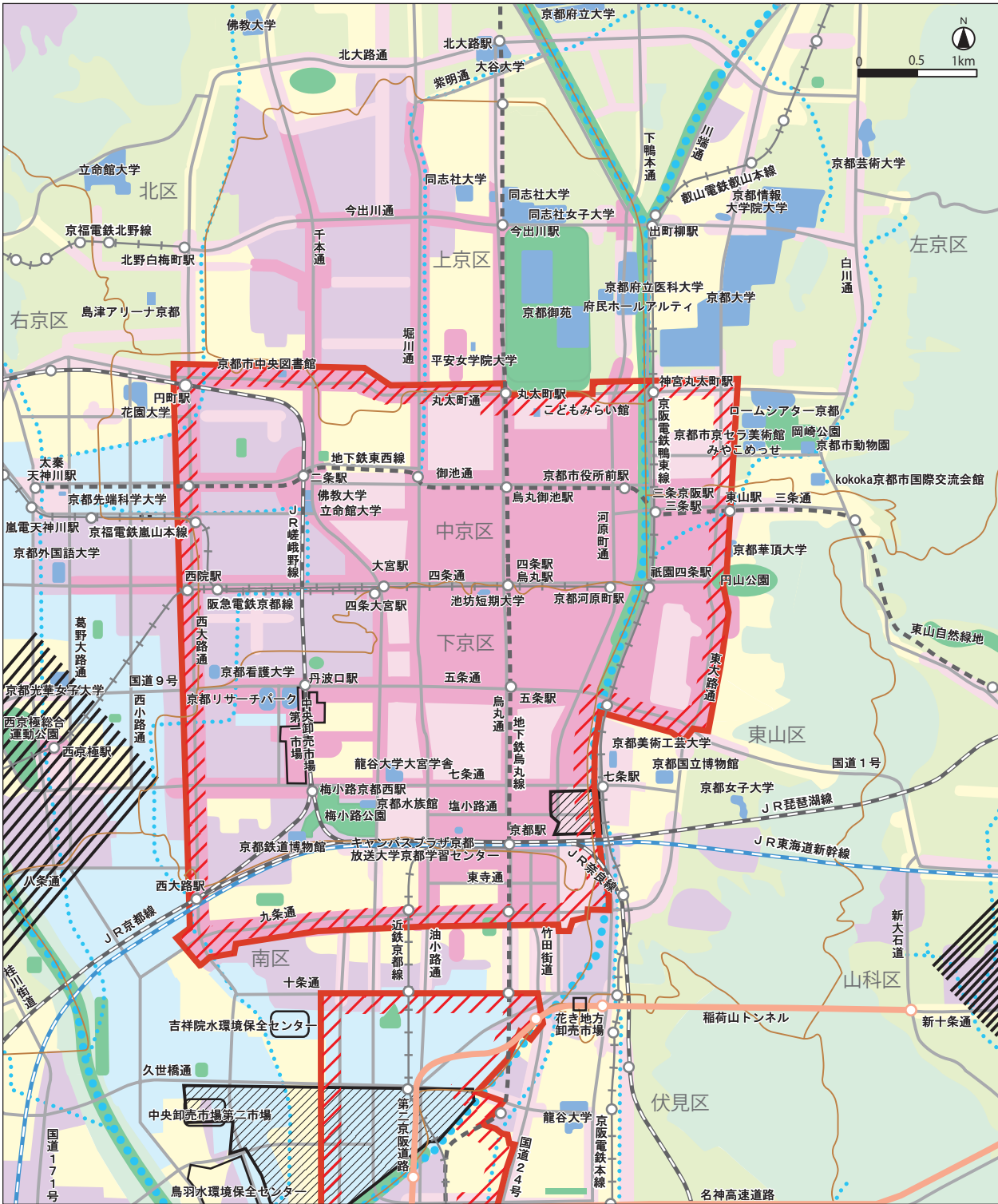
- 本市のにぎわいとビジネスの中心地として、四条通、烏丸通、河原町通沿道などにおいて商業・業務施設をはじめとした多様な都市機能が複合的に集積しているとともに、公共交通網も発達し利便性の非常に高い地域です。
- 歴史的都心地区周辺は、他の大都市の都心部にはない生業と生活が結び付いた職住共存のまちであり、京町家をはじめとした歴史的なストックも多く残されています。
- 本市最大のターミナル駅である京都駅があり、京都の玄関口として商業・業務機能が集積しているとともに、駅周辺においてまちづくりの取組が展開されています。
- スタートアップ企業やコンテンツ関連企業などの新しい産業の立地が最も多く、クリエイティブな産業活動の展開が近年特に活発化してきています。
- 京都リサーチパークにおける施設の充実や梅小路京都西駅の開業などにより、従来の都心（歴史的都心地区及び京都駅周辺）の西側のエリアで活力やにぎわいが高まりつつあります。



(2) 課題

- テナントオフィスビルの空室率が低く、賃料も高いため、市民の働く場となるオフィス空間が確保しにくい状態となっています。
- 京町家の滅失が続いており、市街地景観の変容が生じています。また、細街路や古い木造住宅が集積する密集市街地は、京都のまちの大切な資源である一方、都市防災上の課題を抱えています。
- 地価が高く、若年・子育て層の手が届く価格帯の住宅の供給は少ない一方で、富裕層や外国人が投資目的や別荘用として高価格帯のマンションを購入するケースが目立ち、地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

■現況の土地利用図



- | | | |
|------------------------|----------------|-----------------|
| ■ 広域的な商業・業務が中心となる地域 | — 行政区界 | ●● 河川 |
| ■ 多様な商業が中心となる地域 | — 市域界 | ■ 公園・緑地 |
| ■ 住宅と工業が共存する地域 | ○ 駅 | ■ 土地区画整理事業（施行中） |
| ■ 工業が中心となる地域 | --- 鉄道網（市営地下鉄） | ■ 暮らしを支える主な施設 |
| ■ 良好な住居の環境を保護する地域 | --- 鉄道網（JR線） | ■ 主な学術・文化・交流施設 |
| ■ 住居を中心とする多様な用途が共存する地域 | --- 鉄道網（新幹線） | ■ 都市機能誘導区域 |
| ■ 市街化を抑制すべき区域（市街化調整区域） | --- 鉄道網（私鉄） | |
| ■ 都市計画区域外 | — 自動車専用道路 | |
| | ○ インターチェンジ | |
| | — 主な幹線道路 | |

(3) まちづくりの基本コンセプト

京都らしい歴史的なストックと最先端の機能が重なり合う都心空間の
魅力に磨きをかけ、京都の都市格の象徴として都市活力をけん引する

(4) 主な地域の将来像と暮らしのイメージ

①方面全般（広域拠点エリア）

- 地域の文化・コミュニティや職と住が共存する歴史的な町並みと、広域的な商業施設、多くの企業が活動するオフィスビルやホールなど複合的な機能が重なり合う京都ならではの都心空間において、その魅力を更に高める機能が充実し、国内外から多様な人々が集い、暮らし、働き、交流している。
- 京都都市圏の中核を担う京都駅とその周辺地域では、都市活力をけん引するオフィスビルや商業施設などの都市機能の高度集積が進むとともに、市立芸術大学移転や市中央卸売市場の再整備、梅小路京都西駅の開業を契機として、クリエイティブなまちづくりの機運が高まり、アートやデザイン、ものづくり、伝統・先端産業などが融合した様々な取組・活動が展開されている。

②地域中核拠点エリア

〈丸太町駅周辺〉

京都御苑の豊かな緑とも調和しながら、商業・業務機能の更なる充実が図られるとともに、文化庁の移転を契機に京都の官庁街として風格のある拠点が形成されている。 **MAP ①**

〈円町駅周辺〉

多くの通学・通勤者が行き交うまちとして、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進み、更なるにぎわいが生まれている。 **MAP ②**

〈西院駅周辺〉

都心部や西部、大阪方面への利便性をいかし、西部方面の拠点として、商業・業務・居住などの多様な機能の複合的な集積が進み、混在によるにぎわいが高まっている。 **MAP ③**

〈東山駅周辺〉

三条京阪駅周辺や岡崎地域のまちづくりをつなぐエリアとして、地域の商業・業務機能が充実し、多くの人が行き交う活気あるまちとなっている。 **MAP ④**

〈七条駅周辺〉

市立芸術大学の移転を契機に、地域と学生・若手芸術家との交流が活発に行われ、文化芸術都市・京都の新たなシンボルゾーンとして魅力が高まっている。 **MAP ⑤**

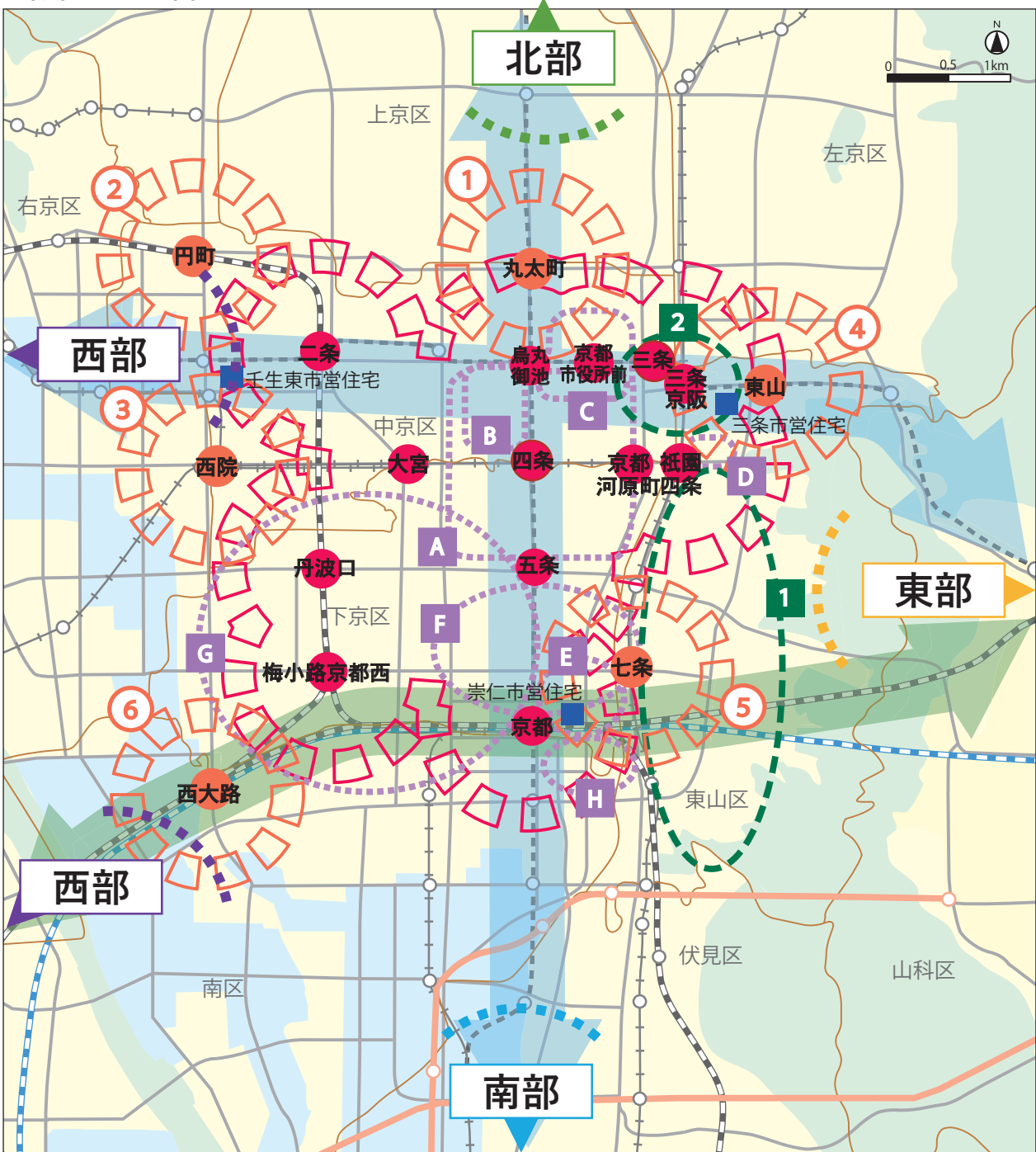
〈西大路駅周辺〉

駅周辺のバリアフリー化や土地の有効活用が進み、周辺の業務機能や工場の操業環境とも調和した潤いある居住環境が創出され、回遊性と利便性を兼ね備えた拠点が形成されている。 **MAP ⑥**

③ポテンシャルの高い主な個別地域

- 東山の高密な市街地では、多くの社寺や落ち着いたきのある居住環境が継承されながら、地域の防災性の向上や空き家の活用が進み、若者から高齢者まであらゆる世代にとって安心・快適で魅力的な地域が形成されている。 **MAP ①**
- 三条京阪駅周辺では、商業・業務機能などの充実とともに、学校跡地の活用や団地再生事業により生まれた用地などの有効活用が進み、多様な機能が集積したにぎわいと活力あふれる拠点が形成されている。 **MAP ②**

■将来イメージ図



主な地域のまちづくり方針等

- ◎ A 職住共存地区整備ガイドプラン
- ◎ B 明倫元学区地区
- ◎ C 姉小路界わい地区
- ◎ D 祇園四条地区
- ◎ E 京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会報告書

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

- ◎ F 京都駅東部エリア活性化将来構想
- ◎ G 京都駅西部エリア活性化将来構想
- ◎ H 京都駅東南部エリア活性化方針

- ❁ 広域拠点エリア (外周部分のみ表示)
- ❁ 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像
- 主な地域のまちづくり方針等
- ⇄ 都市軸
- ⇄ 広域連携軸
- ⇄ 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網 (市営地下鉄)
- 鉄道網 (JR線)
- 鉄道網 (新幹線)
- 鉄道網 (私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路

東部

東部地域は京都の東の玄関口であり、古くから東海道や奈良街道など旧街道沿いに発展したまちで、交通の要衝となっています。

山地に囲まれた盆地にまとまって形成されている市街地は、高度経済成長期の人口増加の影響により大半が住宅地であり、市内中心部や大阪のベッドタウンとしての性格が強い地域です。

また、森林や河川など豊かな自然に恵まれており、歴史・観光資源も各所に点在しています。



(1) ポテンシャル

- 地下鉄東西線及び外環状線が東部地域の南北軸を形成しているほか、2つのインターチェンジがあり高速道路へのアクセスも良好です。さらに、新十条通の無料化により、交通アクセス性が高まっています。
- 山科駅周辺から幹線道路（外環状線、国道1号など）沿いに商業系の施設が集中しているほか、マンションの立地も進んでいます。
- 山科疏水（琵琶湖疏水）や山科川、醍醐山など、豊かな自然に恵まれており、また、山地に囲まれた盆地内部は住宅地が大半を占めています。
- 清水焼、京扇子、京仏具などの伝統産業の生産団地を抱えていることに加え、金属箔、金属粉などの産業も発達しています。
- 世界文化遺産に登録されている醍醐寺をはじめ、名所史跡が数多く点在しているほか、山科なすや山科とうがらしといった京野菜の産地としても知られています。



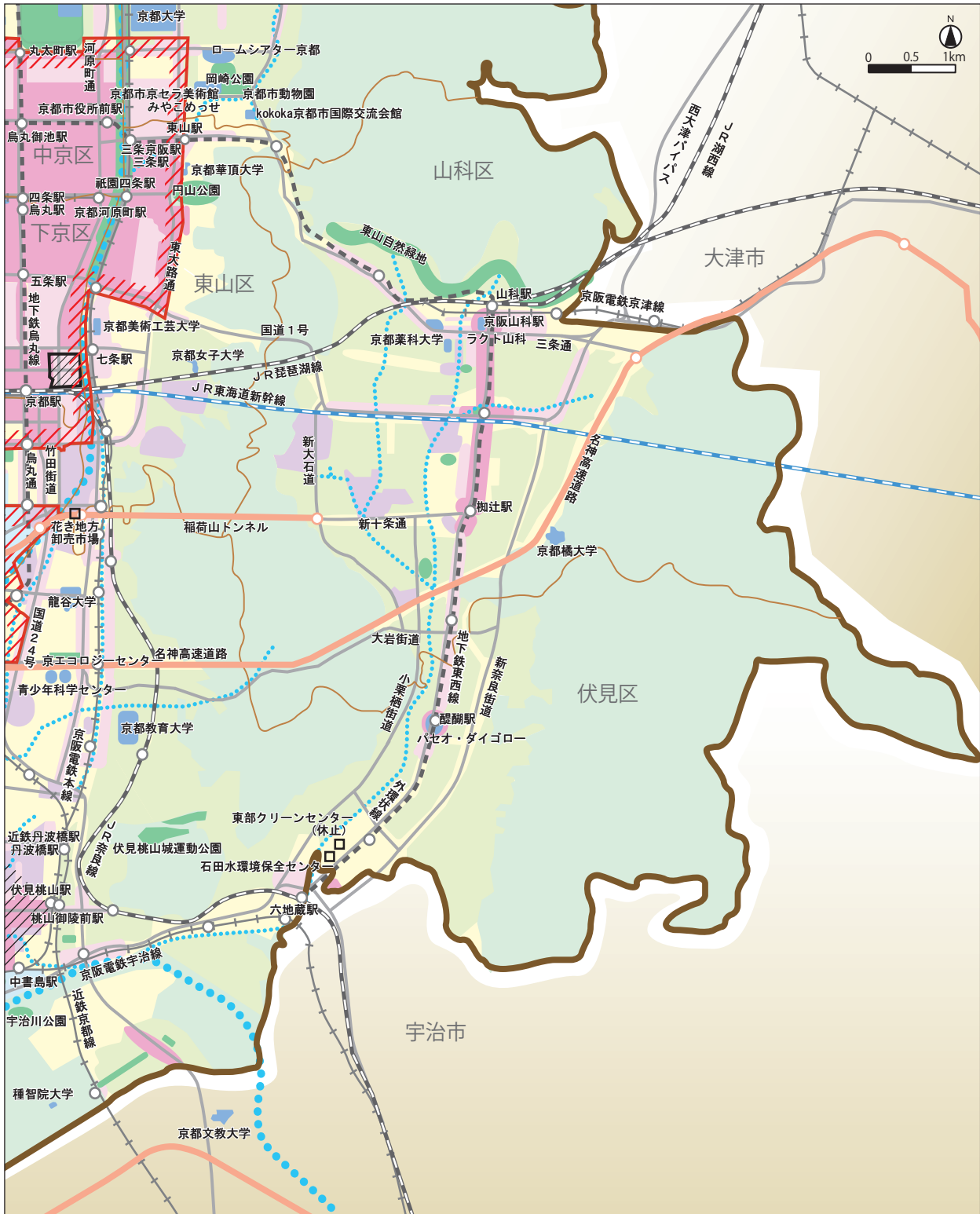
出典: Google Earth



(2) 課題

- 本市の東西軸である地下鉄東西線の整備による効果を、東部地域全体に効率的・効果的に波及させていくため、地域ブランディングにも取り組みながら、にぎわいや働く場の創出など、魅力的な土地利用を促進する必要があります。
- 山科区の住宅地の多くは高度経済成長期にスプロール的に開発されたもので、道路が狭く、公園などのオープンスペースも十分に確保されていない高密な住宅地が多く、居住環境の改善が必要となっています。
- 他の方面と比べて事業所数が相対的に少ないことに加え、昼間の人口が夜間に比べて少なく、働く人の多くが市内中心部や大阪方面などに通勤しています。

■現況の土地利用図



- 広域的な商業・業務が中心となる地域
- 多様な商業が中心となる地域
- 住宅と工業が共存する地域
- 工業が中心となる地域
- 良好な住居の環境を保護する地域
- 住居を中心とする多様な用途が共存する地域
- 市街化を抑制すべき区域（市街化調整区域）
- 都市計画区域外

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網（市営地下鉄）
- 鉄道網（JR線）
- 鉄道網（新幹線）
- 鉄道網（私鉄）
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路

- 河川
- 公園・緑地
- 土地区画整理事業（施行中）
- 暮らしを支える主な施設
- 主な学術・文化・交流施設
- 都市機能誘導区域

(3) まちづくりの基本コンセプト

時代を捉えてポテンシャルをいかし、次の世代にも選ばれる新たな魅力を創出・発信するなど、これからの京都の可能性を引き出す

(4) 主な地域の将来像と暮らしのイメージ

① 方面全般

地下鉄東西線や新十条通の整備などにより高まった市内中心部や南部方面、近隣都市などへのアクセス性をいかし、幹線沿道・沿線を中心に、新たな魅力の創出や活力の向上に資する多様な都市機能が集積するとともに、安心・快適で歩きたくなるようなにぎわいと潤いある都市空間が形成されている。

② 地域中核拠点エリア

〈山科駅周辺〉

J R、京阪、地下鉄の3路線が走る交通の要衝として、市内各地域や近隣都市など広範囲の人々をひきつける商業施設の集積や、多様な働き方に対応したオフィス空間が創出され、職・住・学・遊が充実した京都の東のにぎわい拠点が形成されている。

MAP ①

〈柳辻駅周辺〉

東部地域の新たな核となるエリアとして、区役所などの公共施設や商業施設などの集積や幹線道路との結節性をいかしながら、土地の有効活用が進み、新たなにぎわいが生まれるとともに、利便性の高い良質な居住環境が形成されている。

MAP ②

〈醍醐駅周辺〉

駅周辺の文化・商業機能の更なる集積が進み、公営住宅などの既存ストックも有効に活用されながら、利便性が高く周辺の自然環境とも調和した潤いある居住環境が形成されている。

MAP ③

〈六地蔵駅周辺〉

J R、京阪、地下鉄の3路線の交通結節性をいかして、商業や居住機能の集積が進むとともに、宇治市域と一体となったにぎわいと魅力ある町並みが形成され、地域間の交流も活発に行われている。

MAP ④

③ ポテンシャルの高い主な個別地域

- 東部グリーンセンター跡地とその周辺地域では、教育環境の充実や公営住宅の適切な維持・活用と合わせて、新たな価値やにぎわいの創出に資する多様な施設の立地が進み、エリア全体としての魅力が高まっている。
- 本市が移転をはじめとする敷地の有効活用を要望している京都刑務所が存在する地域では、本市の都市的な課題の解決や地域特性などを踏まえた将来像の実現に資する機能が充実し、地域の魅力・活力の向上につながっている。
- 大規模な住宅団地とその周辺地域では、既存施設が適切に維持・活用され、若者から高齢者まであらゆる世代にとって魅力的な居住環境の充実が図られるとともに、新たな魅力の発信や創出など、若年・子育て層の呼び込みにつながる活動が進んでいる。

MAP ①

MAP ②

MAP ③

■将来イメージ図



主な地域のまちづくり方針等

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

A 京都刑務所敷地の活用を核とする未来の山科のまちづくり戦略

- | | |
|-----------------------|----------------|
| ◎ 広域拠点エリア (外周部分のみ表示) | ⇄ 都市軸 |
| ◎ 地域中核拠点エリア | ⇄ 広域連携軸 |
| ■ 日常生活エリア | ⇄ 地域間をつなぐ新規軸 |
| ■ ものづくり産業集積エリア | ■ 主な活用検討地 |
| ■ 緑豊かなエリア | ■ 団地再生事業中の市営住宅 |
| ① 地域中核拠点エリアの将来像 | |
| 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像 | |
| ◎ 主な地域のまちづくり方針等 | |

- | | |
|-----------------|------------|
| — 行政区界 | — 自動車専用道路 |
| — 市域界 | ○ インターチェンジ |
| ○ 駅 | — 主な幹線道路 |
| --- 鉄道網 (市営地下鉄) | |
| — 鉄道網 (JR線) | |
| — 鉄道網 (新幹線) | |
| — 鉄道網 (私鉄) | |

南部

南部地域は、高速道路や鉄道などの交通網が充実し、市内外へのアクセス性が高いことなどから、幹線道路沿いを中心に企業の本社ビルや工場、研究所などが集積している地域です。

城下町や門前町、計画的開発地など多様な特性を持った市街地が集合してまちが形成されており、歴史的な市街地では酒造業などの地場産業も盛んです。

また、平野部には工業地のほか住宅地も広がり、緑地や河川などの自然環境にも恵まれています。



(1) ポテンシャル

- 名神高速道路などの広域交通や、ＪＲ、近鉄、京阪といった鉄道ネットワークが結節する地域であり、その利便性をいかした企業や工場の立地が進んでいます。
- 本市が高度集積地区として定めているらくなん進都では、近年、オフィス・商業施設の集積やベンチャー企業などの立地が進んでいます。
- 京都駅八条口の駅前広場が整備され、らくなん進都まで直結のバスが運行するなど、都心部からのアクセス性が向上しており、都心部との距離的な優位性をいかした土地利用が進むことが期待されます。
- 伏見旧市街地一帯は、酒造業に代表される伝統産業の集積地であり、南部地域の商業・業務機能の中心としての役割を果たしています。
- 歴史的な町並みを残す市街地や、土地区画整理事業により形成された市街地、鉄道沿線での民間住宅団地、計画的に開発された向島ニュータウンなど、多様な形態の住宅地があります。



(2) 課題

- 将来的に名神高速道路と第二京阪道路を結ぶ「京都南ジャンクション（ＪＣＴ）（仮称）」の整備が進むなど、道路基盤施設が整いつつある一方で、まとまった規模の産業用地の確保が困難な状況です。
- らくなん進都では、一定規模のまとまった産業用地の確保の難しさや京都府南部などの工業地域と比べ高い地価、公共交通の利便性の課題などから、企業にとって立地する動機付けが十分でない状況があります。
- 向島ニュータウンでは、小中一貫校の開校やアフリカの遺児奨学生向けの教育施設の計画が進んでいる一方で、著しい人口減少や少子化、施設の老朽化などが進んでいます。

■現況の土地利用図



- 広域的な商業・業務が中心となる地域
- 多様な商業が中心となる地域
- 住宅と工業が共存する地域
- 工業が中心となる地域
- 良好な住居の環境を保護する地域
- 住居を中心とする多様な用途が共存する地域
- 市街化を抑制すべき区域（市街化調整区域）
- 都市計画区域外

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網（市営地下鉄）
- 鉄道網（JR線）
- 鉄道網（新幹線）
- 鉄道網（私鉄）
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路

- 河川
- 公園・緑地
- 土地区画整理事業（施行中）
- 暮らしを支える主な施設
- 主な学術・文化・交流施設
- 都市機能誘導区域

(3) まちづくりの基本コンセプト

ものづくり産業などの集積を図り、快適な暮らしとも調和する都市環境を創出するなど、京都の新たな活力を生み出す創造ゾーンの中心を担う

(4) 主な地域の将来像と暮らしのイメージ

① 方面全般

内陸都市である京都の創造ゾーンの中心として、伝統や先端の知恵と技術の蓄積、充実した都市基盤などの強みをいかしながら、ものづくり企業をはじめとする多種多様な企業や工場の更なる集積が進むとともに、駅周辺のエリアを中心として、働きやすく、居住環境とも調和した快適な都市空間が形成されている。

② 地域中核拠点エリア

〈竹田駅周辺〉

地下鉄、近鉄が結節するターミナル機能をいかし、南部創造の新たな拠点として商業・業務機能などが集積するとともに、利便性の高い良質な居住環境が充実し、にぎわいと活力に満ちたまちが形成されている。

MAP ①

〈丹波橋・伏見桃山・桃山御陵前駅周辺〉

活気ある商店街や歴史ある市街地の多様な観光資源をいかし、住環境とも調和しながら、商業・業務機能の立地が進むなど、更なるにぎわいが生まれている。

MAP ②

〈中書島駅周辺〉

大阪方面への利便性をいかし、商業・業務機能などが集積し、伏見旧市街地の歴史的景観とも調和した新たな魅力・活力の創造拠点が形成されている。

MAP ③

〈淀駅周辺〉

京都競馬場をはじめとする娯楽・レクリエーション機能、大阪方面への利便性をいかし、商店街などの商業機能が充実し、住環境とも調和しながら、新たな形のオフィスの立地が進むなど、活気あるまちとなっている。

MAP ④

③ ポテンシャルの高い主な個別地域

- 京都駅の南側のエリアでは、京都駅八条口からの乗継利便性、らくなん進都との近接性をいかして、京都ならではの新たなオフィス・ラボ機能の集積地が形成されるとともに、クリエイティブな活動の場の創出により人々をひきつけている。
MAP 1
- らくなん進都では、新しい京都を発信するものづくり拠点として、魅力的な都市環境が生み出され、国内外の最先端のものづくり産業をはじめとする企業の進出意欲が高まり、本社オフィスや生産、研究開発、流通機能などが充実している。また、本市が敷地の有効活用を要望している京都拘置所及び京都運輸支局が立地する地域では、らくなん進都のまちづくりを加速させるための機能の充実が進められている。
MAP 2
- 横大路地域では、土地区画整理事業により整備された都市基盤をいかして、多様な産業の集積が進むとともに、働く人にとって快適で魅力的な都市環境が整っている。
MAP 3
- 南部の市街化調整区域では、高速道路のインターチェンジ付近において、農地などの周辺環境とも調和した工場や物流施設などの立地が進み、新たな産業の集積地として京都の都市活力を支えている。
MAP 4
- 向島ニュータウンでは、既存施設が適切に維持・活用されるとともに、学校跡地などの施設や用地などに新たな機能を導入することにより、多文化・多世代共生のまちづくりが進められている。
MAP 5

■将来イメージ図



主な地域のまちづくり方針等

- ◎ A 京都駅南口周辺地区まちづくり指針
- ◎ B 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりに向けたまちづくりの方針
- ◎ C 久我・久我の杜・羽東師地域の総合的なまちづくりビジョン

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域
 ※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

- ◎ D らくなん進都(高度集積地区)まちづくり推進プログラム
- ◎ E 向島ニュータウンまちづくりビジョン
- ◎ F 伏見ルネッサンスプラン

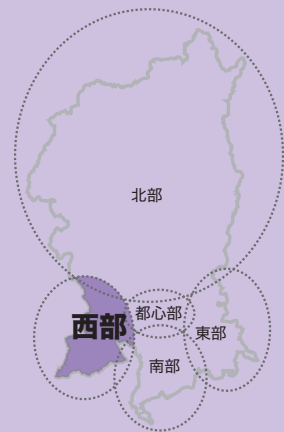
- ✿ 広域拠点エリア (外周部分のみ表示)
- ✿ 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- ① ポテンシャルの高い主要個別地域の将来像
- ① 主要地域のまちづくり方針等
- 都市軸
- 広域連携軸
- 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網 (市営地下鉄)
- 鉄道網 (JR線)
- 鉄道網 (新幹線)
- 鉄道網 (私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主要幹線道路

西部

西部地域は、山林や河川など緑と潤いある豊かな自然に恵まれており、京都の西の玄関口としての役割も担っています。

平野部を中心に多様な住宅地が形成されており、ベッドタウンとしての性格を持つ一方で、学術研究機関やものづくり企業の立地、社寺などの豊富な歴史・観光資源、盛んな都市近郊農業など、様々な魅力があふれる地域です。



(1) ポテンシャル

- 豊かな自然環境に囲まれたゆとりある戸建ての住宅地が形成されており、多くのファミリー層が居住しています。
- 西山丘陵には、計画的な市街地形成が図られた洛西ニュータウンがあり、バスターミナルや大型商業施設が立地するエリアを核として、その周辺には、緑豊かで閑静な住環境が形成されています。
- 学術・先端産業の創出拠点として、京都大学桂キャンパスや桂イノベーションパークがあることに加え、太秦天神川駅至近には京都先端科学大学が立地し、あらゆる地域で大学の知恵や企業の技術をいかしたまちづくりの展開が期待されます。
- 京都固有の歴史文化や景観に優れた観光資源が各所に存在し、嵐山地域には観光客も多く訪れています。
- 桂川以東の工業地域などでは、大小様々なものづくり企業が集積しており、本市の代表的な工業生産機能を担っています。



(2) 課題

- ゆとりある住宅地が広がる一方で、スプロール的に開発が進んだ一部地域では居住環境の改善が必要です。また、働く場が相対的に少なく、働く人の多くが市内中心部や大阪方面などに通勤しています。
- 洛西ニュータウンでは、特に高齢化の進展や若年・子育て層の流出が顕著であり、地域コミュニティの希薄化や、店舗の撤退などによる生活利便性の低下が懸念されます。
- 向日市との市境地域において、大規模開発やインフラ整備の計画が進展しつつある中で、本市と向日市との間で一体的・連続的なまちづくりを進める必要があります。

- 140

(3) まちづくりの基本コンセプト

先端の学術機能・産業、ゆとりある住宅地、自然や文化などの多様な魅力を高め、つなぐなど、新たな価値やライフスタイルを先導する

(4) 主な地域の将来像と暮らしのイメージ

① 方面全般

京都の西の玄関口として、近隣都市や地域の拠点とのつながりをいかしながら、多様な都市機能の立地・集積が進むとともに、大学・研究機関の知恵やものづくり企業の先端技術、歴史・文化資源などが、人々の交流を伴って融合することにより、新たな魅力や価値が創出され、特色ある地域の暮らしの継承・充実につながっている。

② 地域中核拠点エリア

〈嵯峨嵐山・嵐山駅周辺〉

豊かな自然、多様な歴史・文化資源をいかし、商業・居住機能の充実とともに地域全体で新たなまちづくり活動や活発な交流がなされ、住む人、訪れる人の双方にとって満足度の高いまちとなっている。

MAP ①

〈太秦天神川駅周辺〉

交通結節点の利便性、複合的な公共施設の交流機能などを最大限活用し、新たな形のオフィスや生活利便施設の立地が進むとともに、大学やNPOなど多様な主体との連携により、まちづくり活動が展開されている。

MAP ②

〈西京極駅周辺〉

工場やオフィスの集積とともに、良質な住宅や生活に身近な商業施設などが充実し、人々が緑やスポーツに親しみながら快適に暮らし、働くことのできる都市空間が形成されている。

MAP ③

〈桂駅周辺〉

大阪・乙訓方面への利便性が高い交通結節点のポテンシャルをいかし、近隣の大学・研究施設などとの連携により、ゆとりある住環境とも調和した新たな形のオフィスや商業施設の集積が進み、活気あるまちとなっている。

MAP ④

〈桂川・洛西口駅周辺〉

近接する向日市域とも都市計画の一体性を図りながら、商業機能の更なる充実とともに、オフィスや住宅など多様な機能が適切に配置され、若年・子育て層に選ばれるエリアとして認知されている。

MAP ⑤

〈洛西バスターミナル周辺〉

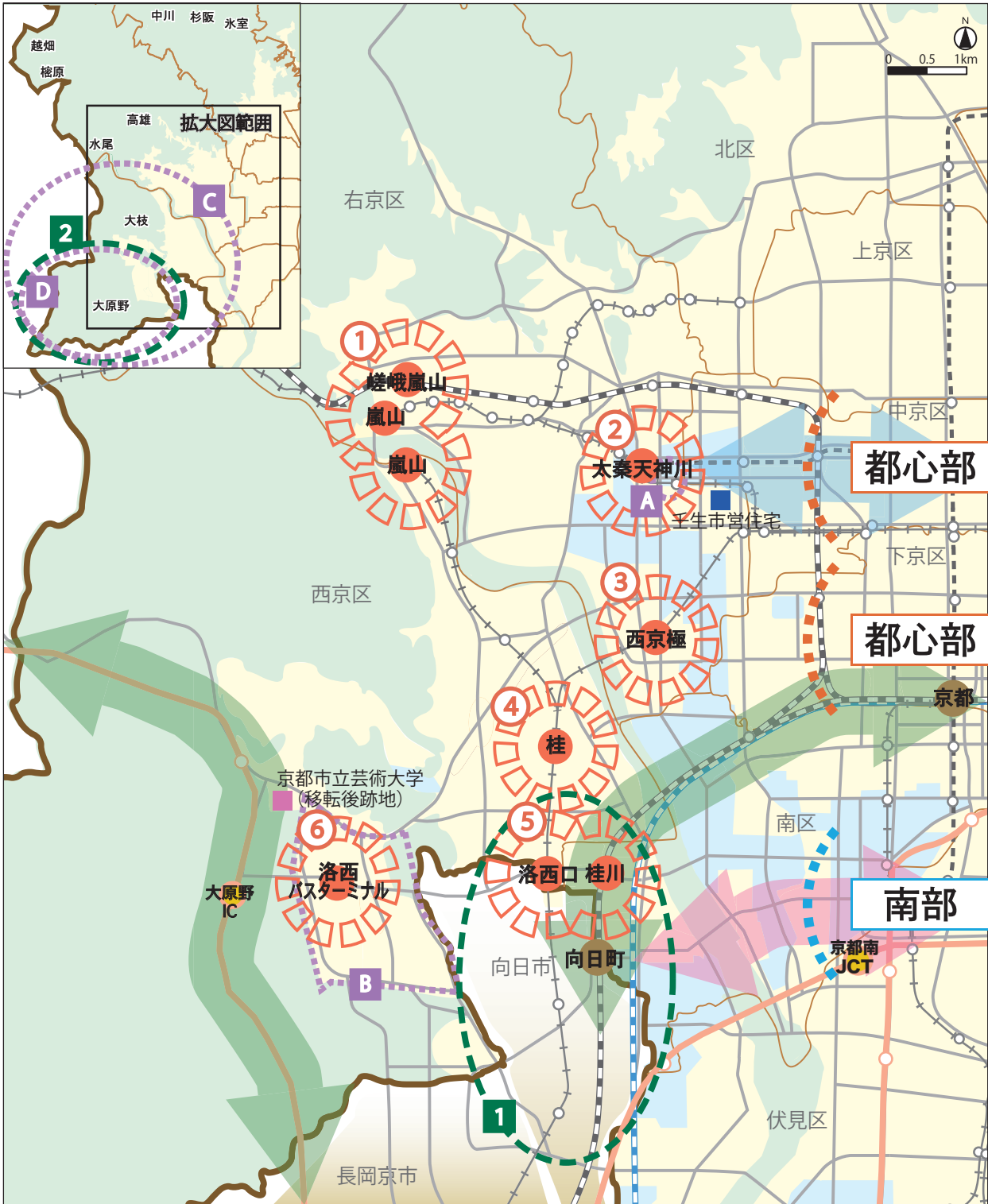
緑豊かでゆとりある生活空間があらゆる世代に再評価され、生活利便機能や交通結節機能を核とした暮らしを支える多様な機能が充実し、新たなライフスタイルに対応した居住環境が形成されるなど、ニュータウン全体の再生が進展するとともに、市立芸術大学移転後の敷地では、本市の都市的な課題の解決や地域のニーズなどを踏まえた機能が充実している。

MAP ⑥

③ ポテンシャルの高い主な個別地域

- 向日市との市境地域では、道路などの都市基盤施設の整備に伴い土地利用の転換が進み、商業・業務・居住などの多様な都市機能が集積するとともに、向日市域と連続した都市空間が創出され、本市・向日市双方の住民にとって利便性が高く魅力と潤いあるエリアが形成されている。MAP ①
- 大枝・大原野地域では、既存集落の住環境や生活環境がより充実するとともに、文化的・地理的特性をいかした産業などの振興により、移住・定住が促進され、市域全体の潤いと豊かさにつながっている。MAP ②

■将来イメージ図



主な地域のまちづくり方針等

◎ A 京都市山ノ内浄水場跡地活用方針

B 洛西ニュータウンアクションプログラム

※「◎」は、地域まちづくり構想に位置付けている地域

※計画期間終了後も地域のまちづくりを推進する方針となっているものを含む。

C 西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョン

D 大原野「地域ブランド」戦略

- ◎ 広域拠点エリア (外周部分のみ表示)
- ◎ 地域中核拠点エリア
- 日常生活エリア
- ものづくり産業集積エリア
- 緑豊かなエリア
- ① 地域中核拠点エリアの将来像
- 1 ポテンシャルの高い主な個別地域の将来像
- ◎ 主な地域のまちづくり方針等
- 都市軸
- 広域連携軸
- 地域間をつなぐ新規軸
- 主な活用検討地
- 団地再生事業中の市営住宅

- 行政区界
- 市域界
- 駅
- 鉄道網 (市営地下鉄)
- 鉄道網 (JR線)
- 鉄道網 (新幹線)
- 鉄道網 (私鉄)
- 自動車専用道路
- インターチェンジ
- 主な幹線道路